

# JACS NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニュースレター

第25巻第2号

発行日●2017年7月19日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

## 第55回 消費者行動研究コンファレンスのお知らせ

秋の消費者行動研究コンファレンスの開催日程が決定しましたので、ご案内いたします。現在、コーディネーターの石崎徹先生（専修大学）を中心としてプログラムを検討中です。詳細については次号で再度お知らせいたします。いましばらくお待ちください。

開催日程：2017年10月21日（土）・22日（日）

開催場所：立命館大学・茨木キャンパス（大阪府茨木市）

## 自由論題研究報告・公募シンポジウム募集中！

秋のコンファレンスにおける自由論題研究報告ならびに公募シンポジウムの報告を募集します。募集の詳細は、JACS Web サイト (<http://www.jacs.gr.jp/>) をご覧ください。

## 第54回 消費者行動研究コンファレンス 開催報告

### <統一論題> 消費者行動論の NEXT WAVE

2017年5月20日・21日（土・日）に、慶應義塾大学・三田キャンパス（東京都港区）にて、第54回消費者行動研究コンファレンスが、200名以上の学会員が参集して開催されました。

土曜日のプログラムでは、午前中 SCP Special Session と題し、鈴木智子先生司会により、J. Inman、C. W. Park、J. Peck の各先生から、キーノートスピーチとパネルディスカッションを展開していただき、清水聰会長も議論に参加されました。午後は会員総会に引き続き、清水会長から「研究者として生き残っていくには」という刺激的な内容の会長講演があり、その後7件の自由論題研究報告がなされました。

日曜日午前には、初めての試みである「ラウンドテーブル」が開催されました。今回は、7つのラウンドテーブルが企画され、どのテーブルでも活発な議論が展開されました。午後に、6件の自由論題研究報告が行われ、熱のこもった報告と質疑が行われました。

今回のテーマである「消費者行動研究論の NEXT WAVE」については、コンファレンスのあちこちで次の研究のあり方、萌芽的な研究テーマが熱心にディスカッションされ、十分そのミッションを達成したものと考えています。

## —JACS プロポーザル賞 優秀賞—

「消費者の行動特性とイノベーションの再検討—リードユーザー尺度の製品分野を超えた拡張」

本條晴一郎（法政大学大学院）

この度は、第16回 JACS 論文プロポーザル賞優秀賞をいただき、大変うれしく思っております。

現在私が取り組んでいる研究は、どのような特徴を持った消費者がどのような状況で創造性を発揮し、製品の改良や創造に携わるかについてです。今回のプロポーザルでは、その一環として「消費者の行動特性とイノベーションの再検討—リードユーザー尺度の製品分野を超えた拡張」という標題で発表させていただきました。

消費者行動研究における革新性概念の研究は、Rogers の普及理論に対する批判として始まったという歴史的経緯から (Midgley and Dowling 1978)、長きにわたって新製品の早期採用傾向に限定した形で行われてきました。しかし、2000年代半ばから Journal of Consumer Research に消費者による製品改良、製品創造を扱った論文が掲載されるようになり、今では消費者イノベーター (consumer innovator) という語は、イノベーションの原義通りに、製品の改良や創造を行う消費者を表すものとなっています (Martin and Schouten 2014)。

製品の使い手自身が製品を改良・創造するユーザーイノベーションという現象については、すでに40年に渡る研究成果の蓄積があります (von Hippel 2005; 小川 2013)。そこでは、関連する新製品や新プロセスのニーズにおいてトレンドの最先端にいる「先進性」および、ニーズの解決によって高い便益が得られると予期している「高便益期待」という2つの特徴を持つリードユーザーがイノベーションの担い手であることが示されています。特に2000年頃から消費者によるユーザーイノベーションに注目が集まり、消費者イノベーターの特徴を表す構成概念としてリードユーザー尺度が開発されました。

既存のリードユーザー尺度は、製品のト

レンドに関わる概念だということを1つの理由として、製品分野を限定して操作化されています。しかし、特定の製品分野を超えて市場一般についての知見をもつマーケットメイブンという消費者が存在することから、リードユーザー尺度を製品分野に限定して考える根拠は希薄なものといえます。そこで今回は、製品分野の限定を外した上で先進性と高便益期待がそれぞれ操作化できるかについて研究しました。その結果、両者はそれぞれ妥当な尺度として成立するのみならず、消費者イノベーションの発生可能性に説明力を持つことを見出しました。現在は、先進性と高便益期待のそれぞれがイノベーションのどの側面に影響を与えるのか、それぞれの先行要因は何かについて研究を進めております。

Web上のサービスの発展と普及によってクチコミが増大・可視化されたように、3Dプリンタなどの生産手段の利用が容易になることで消費者イノベーションはますます一般的なものになると予想されます。普及研究やネットワーク理論などの研究分野と、創造性研究や企業家研究などの研究分野の両者と関係するリードユーザーについての理解を深めることで、消費者行動研究の蓄積を新しい現実につなぐことができるのではないかと考えております。

末筆ながら、JACS 論文プロポーザル賞の審査を務められ貴重なコメントを下さった先生方、学会およびコンファレンス運営に携わって下さっている皆様、様々な場面で貴重な意見や情報を下さる先生方、西川英彦先生をはじめとする日頃からご指導、ご助言を下さる先生方に感謝を申し上げます。今回賞をいただいたことを励みに、消費者行動研究に貢献する成果を出せるよう、より一層の精進に努めて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いたします。

## 2016 年度決算報告および 2017 年度予算案

2017 年 5 月 20 日に開催された役員会および会員総会において、2016 年度の決算報告、および 2017 年度の予算案が下記のとおり承認・決定されました。ここにご報告いたします。

なお、会員総会でご承認いただきました予算案のうち、次年度繰越金額に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。今後は、収支計算書と厳密に照らし合わせ、関係者の複数チェックを徹底いたします。

### 2016 年度決算報告

科 目	予算額
1) 収入の部	
会費収入	6,405,000
学会員	4,080,000
学会学生会員	325,000
個人賛助会員	195,000
法人賛助会員	1,350,000
滞納等	455,000
コンファレンス収入	1,767,000
学会誌販売収入	81,009
雑収入	59
収入合計	8,253,068
2) 支出の部	
印刷費	498,089
ニューズレター	498,089
事務費	2,014,472
学会誌印刷・発送一式費	1,004,100
通信費	135,193
Web ホスティングサービス利用費	45,360
ホームページ英訳・リニューアル費	167,076
その他	662,743
事業運営費	4,348,138
コンファレンス支出	1,966,249
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	208,480
査読システム運用費	129,600
国際交流事業費	1,443,809
ワークショップ開催費(開催補助費)	0
プロポーザル賞賞金	200,000
予備費	2,160,364
出版システム開発費	0
事務委託費	2,160,364
支出合計	9,021,063
当年度収支差額	-767,995
前年度繰越金	35,419,293
次年度繰越	34,651,298

### 2017 年度予算

科 目	予算額
1) 収入の部	
会費収入(2017 年度分)	6,405,000
学会員	4,080,000
学会学生会員	325,000
個人賛助会員	195,000
法人賛助会員	1,350,000
滞納等	455,000
コンファレンス収入	2,000,000
学会誌販売収入	80,000
雑収入	0
収入合計	8,485,000
2) 支出の部	
印刷費	300,000
ニューズレター	300,000
事務費	1,690,000
学会誌印刷・発送一式費	1,000,000
通信費	140,000
Web ホスティングサービス利用費	50,000
ホームページ英訳・リニューアル費	0
その他	500,000
事業運営費	3,950,000
コンファレンス支出	2,000,000
コンファレンス開催費(開催校補助費)	400,000
学会誌作成費(査読謝礼費)	350,000
査読システム運用費	250,000
国際交流事業費	250,000
ワークショップ開催費	200,000
プロポーザル賞賞金	500,000
予備費	3,501,394
出版システム開発費	250,000
事務委託費	3,251,394
支出合計	9,441,394
当年度収支差額	-956,394
前年度繰越金	34,651,298
次年度繰越金	33,694,904

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事 須永 努 印

上記の報告を適正なものと認めます。

監事 松井 剛 印

**学会費の「銀行振込み」についてのお願い**

銀行振込をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

やむを得ず組織名から（または組織名のみ）の振込人名になる場合は、事務局まで e-mail にてご一報いただきますようお願い致します。

**ご所属・ご住所の変更についてのお願い**

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。お手数ではございますがよろしくお願い致します。

また、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記されるケースが見受けられますが、手続上、データベースの修正は年 1 回（年度末）となってしまいます。

変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。なお、ホームページからご自身で直接、変更可能ですので、是非ご活用ください。

**新入会員の募集について**

本学会への入会を希望される方は、ホームページから入会申込書をダウンロードの上、必要事項を記入、捺印の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

**●入会資格**

[学会会員]

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学会会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

**●年会費**

[学会会員] 10,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円

法人会員 1 口 50,000 円

**●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●**

(事務局) 関西学院大学 商学部 須永努研究室  
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155  
Email: jacs.assist@gmail.com

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱  
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F  
一般社団法人 学会支援機構内  
Tel: 03-5981-6025 Fax: 03-5981-6012 Email: jacs@asas.or.jp

<JACS Website>

<http://www.jacs.gr.jp/>